



南米【アルゼンチン】

1 農・畜産業の概況

全国の農業経営体 32 万戸の所有面積は、1億 7700 万ヘクタールとなっており、このうち 3500 万ヘクタールが農耕地、1億 4200 万ヘクタールが牧草地として利用されている。ブエノスアイレス州を中心とするパンパ地域は、平たん、かつ肥沃(ひよく)な土地条件に加え、気候も温暖で降雨に恵まれ、農畜産物の主要産地となっている。

アルゼンチンの農業は実質国内総生産(GDP)の 5.3%と、国内産業に占める比率は大きくないが、農産物輸出額は全輸出額の 5割強を占め、農業は外貨獲得上、極めて重要な地位にある。2008 年の農林水産品(1次産品)およびその加工品の輸出額(FOB)は、前年比 26.7%増の 399 億 7 千万ドルとなった。その内訳は、穀物類が 67 億 7 千万ドル(45.3%増)、乳製品が 10 億 7 千万ドル(67.2%増)などとなっている。



2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

主に放牧酪農による生産が行なわれており、生乳生産はパンパ地域に集中している。サンタフェ州(全生産量の

35.5%を占める)、コルドバ州(同 34.5%)、ブエノスアイレス州(同 24.4%)が主要生産州である。乳牛の品種はホルスタイン種が約 95%を占めている。

生乳生産量は、乳業工場の近代化や加工処理能力の拡

大などを背景に、92年以降一貫して前年を上回って推移し、99年には1033万キロリットルに達した。しかし、経済危機などの影響を受け、国内需要が後退し、生乳生産量の増加が続いて供給過剰となったことから、99年に生乳価格が急落し、これに伴う収益性の悪化による経営離脱や、大豆の国際価格の上昇による優良草地の大豆畑への転換などから生乳生産量の減少が続き、輸入超過となった。一方、2002年の通貨切り下げによる価格の優位性から2004～2006年まで乳製品輸出は大幅に増加したが、2007年は長雨による牧草地の冠水や政府の輸出管理の強化から、大幅に減少した。2008年は、酪農経営に対する補てん制度の実施や、生産者価格の上昇などから、生産量は1000万キロリットルを上回る程度まで回復した。

①生乳の生産動向

酪農経営に対する補てん制度の実施や乳製品の国際価格の上昇による生産者価格の上昇から、2008年の生乳生産量は、前年比5.1%増の1000万1千キロリットルとなった。

②牛乳・乳製品の需給動向

2008年の牛乳・乳製品の消費量(生乳換算ベース)は、803万キロリットルと生乳生産量の80.2%を占め、1人当たり年間消費量は202リットルとなっている。なお、飲用乳の1人当たりの年間消費量(2008年)は43リットル、乳製品は同31.2キログラムとなっている。

乳製品生産量の内訳は、ヨーグルトが51万9千トン、チーズが49万1千トン、粉乳が22万5千トンなどとなっている。

また、バターや脱脂粉乳などの輸出が減少したものの生乳生産量の増加から牛乳・乳製品の輸出量は、前年比10.1%増の199万8千キロリットルとなった。1993～2000年には輸出先としてメルコスル諸国が全輸出量の8割を占めていたが、2001年以降は生乳生産の増加や国際需給の動向などにより、メルコスル諸国以外の国への輸出が増加したため、近年は3割台まで低下している。なお、2008年は、全粉乳の4割強がブラジル、アルジェリアおよびベネズエラに輸出された。

なお、政府は大幅に不足する税収の補完および国内の小売価格上昇の抑制を目的に、2002年3月より主要農産物に対し輸出課徴金制度を課している。例えば、粉乳の税率については、2007年2月以降、輸出額の5%を最低とし、輸出額が政府の定める基準額を超過した場合、税率を引き上げる算定式が採用されている。基準額については、国内需給動向などによりたびたび変更される。なお、2007年4月の粉乳の基準価格は、1トン当たり2100ドルであったが、同年11月以降は気象条件の影響が克服され、生乳生産が回復したことから、国内市場の供給過剰を回避するため、基準額が同2650ドルに引き上げられた。また、2008年2月以降に生乳生産拡大のため、粉乳類などの輸出課徴金を原資とした酪農家への補てん金交付を実施した。

表1 牛乳・乳製品の需給

(単位: 百万リットル)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
生乳生産量	9,169	9,493	10,162	9,527	10,010
輸出量	2,176	2,215	2,850	1,815	1,998
輸入量	63	53	20	23	13
消費量	7,162	7,085	7,387	7,633	8,030
1人当たりの年間消費量(リットル)	187	184	190	194	202

資料: アルゼンチン農牧漁業食糧庁(SAGPyA)

注: 消費量は生乳換算ベース。

③ 牛乳・乳製品の価格動向

2008年の生乳価格(乳業メーカーによる生乳1リットル当たりの生産者支払い価格)は、国内消費が増加したことに加え、世界的な乳製品需給がひっ迫気味となったことから、前年を20.8%上回る1リットル当たり0.87ペソとなった。

また、牛乳(低温殺菌乳)の卸売価格は、同13.0%上回る1.22ペソとなった。

(2) 肉牛・牛肉産業

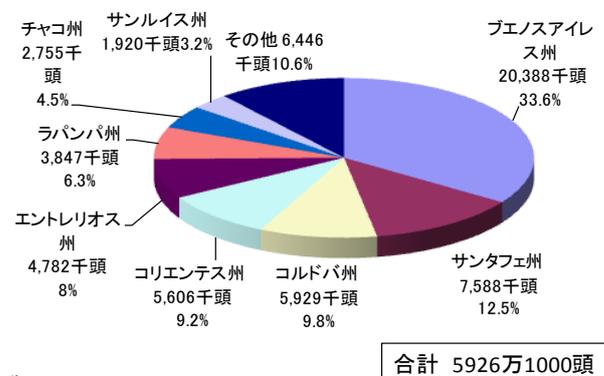
肉牛生産は、肥沃(ひよく)なパンパ地域を中心に、アンガス、ヘレフォードなどのヨーロッパ品種およびその交雑種による放牧肥育を主体とした生産が一般的に行われている。

家畜衛生に関しては、北パタゴニアB地域と呼ばれるリオネグロ州とネウケン州が新たな口蹄疫ワクチン不接種清浄地域のステータスを獲得した。またBSEステータスについては、ウルグアイ、豪州、シンガポール、ニュージーランドとともに、無視できるリスクの国と評価された。

① 牛の飼養動向

牛飼養頭数は、2007年まで増加傾向で推移したが、降雨不足などから前年比1.5%減の5926万頭となった。2008年の州別牛飼養頭数を見ると、ブエノスアイレス州(34%)、サンタフェ州(13%)、コルドバ州(10%)、の3州で全体の6割近くを占める。

図2 牛の州別飼養頭数(2008年)



資料: SENASA(国家動植物衛生機構)



資料: SENASA(国家動植物衛生機構)

② 牛肉の需給動向

ア 生産

2008年のと畜頭数は、飼養頭数の減少などから前年比2.6%減の1454万頭、牛肉生産量(枝肉重量ベース)は同3.3%減の31万トンとなった。

イ 輸出

2008年の牛肉輸出量(枝肉重量ベース)は、政府の牛肉輸出制限措置や国際金融危機の影響などから、前年比

20.3%減の43万トンとなった。内訳を見ると、生鮮肉が前年比21.7%減の21万トン、加工肉が同10.3%減の3万トンなどであった。また、国別では、生鮮肉についてはロシアが全体の33.0%、チリが同12.5%、ベネズエラが同10.9%などとなっている。また、EU向けヒルトン枠(一定基準を満たす骨なし高級生鮮牛肉に関する関税割当制度)についてはドイツが全体の5割以上を占めた。加工肉については米国が全体の約4割を占めた。

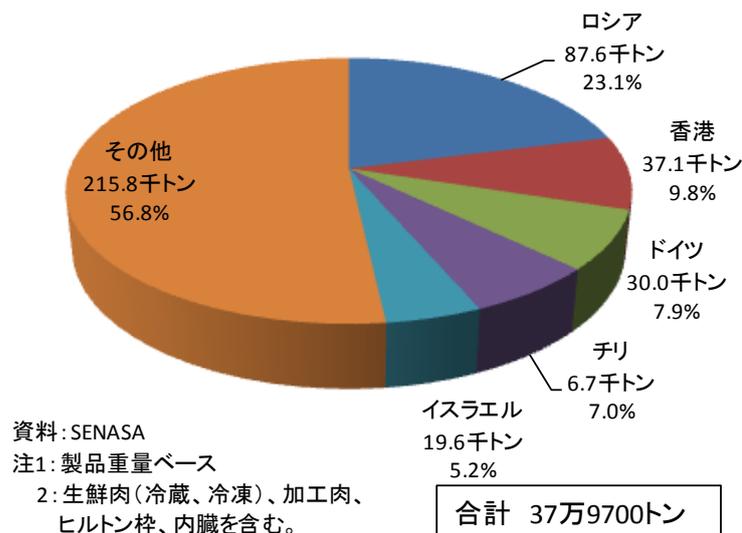
表2 牛肉需給の推移

区分/年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
牛と畜頭数(千頭)	11500	12532	14328	14252	13419	14925	14543
生産量(千トン)	2526	2664	3024	3131	3038	3218	3113
輸出量(千トン)	351	392	631	771	565	539	539
1人当たり年間消費量(kg)	60	62	64	61	63	68	68
去勢牛生体価格(ペソ/kg)	2	2	2	2	2	3	3

資料: SAGPyA

注: 生産量、輸出量は枝肉重量ベース

図3 牛肉の輸出先国(2008年)



ウ 消費

2008年の1人当たり年間牛肉消費量は、前年同の68キログラムとなった。

③ 価格動向

主要な家畜市場であり、ブエノスアイレス市に位置するリニエルス家畜市場における2008年の肥育牛(去勢牛)価格

は、前年を12.1%上回る生体1キログラム当たり2.97ペソとなった。

また、小売価格については、ショートリブが同11.9%上回る1キログラム当たり10.43ペソ、ストリップロインが同12.8%上回る9.40ペソとなった。

3 飼料穀物

世界のトウモロコシ生産の約2%を占めるアルゼンチンでは、大家畜の放牧を中心とした畜産物生産が行われていることから飼料需要が少ないため、世界の貿易量の2割を占め、米国に次ぐ世界第2位のトウモロコシ輸出国である。

しかし、土地当たりの収益は大豆に比べ低いことから、トウモロコシ生産量は減少傾向にある。

一方、大豆生産量は世界の約2割を占めており、大豆の国際市場に大きな影響力を持つ。トウモロコシと大豆は作付け時期が重なり競合するため、価格関係が作付面積に影響する。また小麦は、大豆の裏作として生産される冬作小麦が生産の大部分を占める。

① 主要な政策

2002年1月の通貨切り下げに伴う、大幅な税収不足の補完を目的に、2002年3月より主要農畜産物に対し輸出課徴金制度を設けている。以降、経済の回復に伴うインフレの進行により、食料品価格が次第に上昇したため、農産品の国

内供給の安定を図ることを目的として、品目ごとにたびたびの税率の変更を行っている。2008年3月に、政府は輸出課徴金制度を改正し、大豆などの税率を引き上げる一方、トウモロコシなどの税率を引き下げようとしたが、生産者団体などの強い反対により、結局廃案となった。その後、トウモロコシについては、輸出管理が強化される一方で、12月に税率が引き下げられた。

② 飼料穀物の需給動向

2007/08年度のトウモロコシ生産量は、前年度比1.2%増の2202万トンに達した。また、2008年の輸出は、政府の輸出管理が強化されたものの、EUや中東諸国向けなどが増加したことから、前年比2.1%増の1498万トンとなった。

トウモロコシと同様にソルガムは輸出が増加したものの、小麦、大豆(粒)は減少した。品目別の主な輸出先を見ると、トウモロコシはEU、マレーシアおよび南アフリカ、ソルガムは日本およびEU、小麦はブラジル、大豆(粒)および大豆油は中国、大豆油かすはEUとなっている。

表3 主要穀物生産量の推移

区分/年度		2001/02	2002/03	2003/04	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	前年度比(%)
トウモロコシ	作付面積(千ヘクタール)	3,062	3,084	2,988	3,404	3,190	3,578	4,239	△ 18.5
	収穫面積(千ヘクタール)	2,420	2,323	2,339	2,783	2,447	2,838	3,412	△ 20.2
	生産量(千トン)	14,712	15,045	14,951	20,483	14,446	21,755	22,017	△ 1.2
	単収(トン/ヘクタール)	6.08	6.48	6.39	7.36	5.90	7.67	6.45	▲ 15.8
大豆	作付面積(千ヘクタール)	11,639	12,607	14,527	14,400	15,393	16,135	16,596	△ 2.9
	収穫面積(千ヘクタール)	11,405	12,420	14,305	14,037	15,130	15,975	16,380	△ 2.5
	生産量(千トン)	30,000	34,819	31,577	38,300	40,537	47,461	46,232	▲ 2.6
	単収(トン/ヘクタール)	2.63	2.80	2.21	2.73	2.68	2.97	2.82	▲ 5.0
小麦	作付面積(千ヘクタール)	7,109	6,300	6,040	6,260	5,222	5,676	5,487	▲ 3.3
	収穫面積(千ヘクタール)	6,841	6,050	5,735	6,067	4,976	5,540	5,674	△ 2.4
	生産量(千トン)	15,292	12,301	14,563	15,960	12,593	14,548	16,067	△ 10.4
	単収(トン/ヘクタール)	2.24	2.03	2.54	2.63	2.53	2.63	2.83	△ 7.8
ソルガム	作付面積(千ヘクタール)	592	593	545	617	577	700	807	△ 15.3
	収穫面積(千ヘクタール)	540	534	475	558	498	594	618	△ 4.0
	生産量(千トン)	2,847	2,685	2,165	2,894	2,328	2,795	2,937	△ 5.1
	単収(トン/ヘクタール)	5.27	5.03	4.56	5.19	4.67	4.71	4.75	△ 1.0

資料: SAGPyA

表4 主要穀物輸出量の推移

(単位: 千トン)

区分/年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
トウモロコシ	9,301	11,648	10,280	14,227	10,327	14,668	14,981
大豆(粒)	6,171	8,851	6,668	9,823	8,177	12,028	11,847
小麦	8,873	6,037	9,956	9,957	9,365	9,484	8,497
ソルガム	317	584	159	308	194	1,051	1,092

資料: SAGPyA

③価格動向

2008年の穀物1トン当たりの生産者販売価格については、トウモロコシは前年を21.7%上回る447.6ペソ、大豆は同

33.0%上回るトン901.2ペソ、小麦は同17.5%上回る531.29ペソ、ソルガムは同19.8%上回る404.5ペソとなった。

表5 主要穀物の生産者販売価格

(単位: ペソ/トン)

区分/年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
トウモロコシ	239.8	395.5	236.8	203.7	284.6	367.9	447.6
大豆	470.4	521.1	567.7	495.2	530.0	677.6	901.2
小麦	334.0	337.2	314.5	292.6	335.5	452.1	531.3
ソルガム	197.0	182.1	179.5	143.6	210.4	337.6	404.5

資料: SAGPyA



毎年7月にブエノスアイレス市内で開催される農牧展